

ポラステ
つなぐ
ストーリー



卒業後の自分を想像する
センパイからのメッセージ

福島 奨平 さん

平成22年3月修了／教育委員会（小学校教諭・社会教育士）

現在、教育委員会で働く福島さん。

加東市生涯学習サポーターとして活動しているみなさんには、とても馴染みのある方です。

大学は バレーボール一色

---福島さんが兵教を卒業したのは、今から12年前。大学時代は、バレーボール部に所属。大学時代の思い出は？

思い出してもバレーボールをしていた印象しかないですね（笑）。

世に出せないような出来事…昔は卒業式のお祝いを講堂のところで盛大にやっていました。部活動ごとに出し物があり、バレー部はビールかけをしていました。先輩にびゅーっとビールを

かけて。でも毎年ビールかけだと面白くないと言って、ある年にはみんなでパイ投げをした時がありました。テレビで見るとようなパイ投げです。今は絶対してないと思います。その卒業式までにみんなで泡立ててパイを作ったたくさん準備しました。それを先輩に投げる。つつつる滑りながら。場所は、横の広場でしていました。その後の掃除もすごく大変でしたけど、やってみていろいろ分かることが多かったです。実際しっかり掃除をしたので、支援課からも怒られてないです。そんなことばかりしてました（笑）。でも、そんなことは教師になったらできないじゃないですか。それもすごく楽しかったです。

極度な人見知りだから教師に

---幼少期はとてもおとなしく、とんでもなく人見知りだと言う福島さん。
なぜ、そんな福島さんが学校の先生を目指したのですか？

教師になりたいと思ったのは、子どもが好きなのはもちろんですが、大人と喋るのが苦手だという理由もありました。教師になったら子ども相手だから、子どもなら喋れるなと思ってなったんですけど…。でも結局、教師になっても大人と喋る機会はとてもありまして。例えば家庭訪問、保護者会、会議など、他の先生もみんな大人だし、だから現実には思っていたのとは違うなと思いました（笑）。大人相手に話をするときは、とても緊張していました。
今も変わらずずっと人見知りです。例えば、初対面でボランティアの学生を迎えに行くと、逆にその沈黙に耐えられなくて。その沈黙を破りたいから自分から喋ってしまう。**自分から居りやすい空間を作るために、喋ったり、笑顔だったり、そういうことをしているのかなあと思う。**今でも学生さんを送迎するときにドキドキしています。今日はどうな子なんかなあとか。何喋ろうかなあとか。

10年の教師生活、 辞めようと思ったことは…

教師になりたてのときは、授業がうまくいかなかったりとか、トラブルを解決するのに苦労したりとか、そういう時にすごく悩んだ経験はありました。また、勤務年数を重ねるごとに、自分の仕事量がすごく多くなり、結局ずっとパソコンに向かって事務仕事をやっている時に、「これって教師の仕事なんかな」と感じたときがあります。これがやりたかったことなのかなとか、教師には向いていないのかなとか、辞めたいなという気持ちに“ぽろっ”なったこともあります。1年目は周りの先輩の先生も手厚くみてくれるんですけど、2年目以降は、もう1人前という風に見られるんですけど、経験を積んでもなかなかうまくいかへんなあとか、どうしようか思うことも多いんです。けど**結局は何とかなるというか、本当に辞めるとはなっていないので、何とかなったのかなと思っています。**

---その時、何かをして乗り越えたんですか？
それとも自然と時間と共に？

結局自分のことがうまくいなくても、子どものことで悩んでいてもベテランの先生や周りの先生方に相談したら助けてくれました。仕事が終わらず学校に残っていたとき、一緒に働いている他の先生も残っていて、楽しい話もしました。職場の先生と話したり、悩みを相談したり

と、そんな日を過ごしていたらしんどくても何とか乗り切れた感じがありました。結局教師は、1年1年ごとに学年、クラスが変わるので、去年ここがうまくいかなかったなとか、去年上手くいかなかった“ここ”を変えてみようとか、関わり方変えてみようとかを考えて次のスタートが切れるので、前向きに考えてそこまで引きずることはなかったです。それが多分自分にとってはよかったところじゃないのかなと思います。

子どもと接するとき、大事にしていること

笑顔を何よりも大事にしたいなあと思っています。

嫌なことがあっても、前の日しんどかったなあと思っています、子どもの前に立つときには、笑顔でいることを心がけようと思っています。結局教師という仕事は人との関係だと思うので、むすーっとしていたりしていると、愛想のない人のところには誰も寄ってこないと思います。基本笑顔で関わりやすい雰囲気を持ちながら、子どもであろうと大人であろうと関わろうとしています。でも特に意識してなくても、ずっと笑っているらしいです（笑）。一回子どもから怒ってる時も「ニヤニヤしてるな」と言われたことがあります。子どもらに「先生を一言で言えば」というと、また同じように「いつもニヤニヤしている」と言われたので、もう少し言い

方を「いつも笑顔が素敵やね」とかに変えてくれないかなと言いました。それぐらいずっと笑っている印象があるみたいです。

嬉しかったこと・感動したこと、そしてやりがい

---教師生活で嬉しかったこと、感動したことは？

学年が終わるときや何か学校行事、イベントや嬉しいことがあったりすると、何かとすぐに泣いてしまいます。

子どもからも「先生はすぐ泣く」と言われました。例えば、卒業式の時とか、涙を期待して「先生はいつ泣くん？」って聞いてきました。教師って、いろんな感動的なことや嬉しいことがいっぱいあるんだなあと思います。やりがいがすごくある仕事ですね。

---やりがいは特にどういうところが？

応えてくれるところ。

一生懸命頑張ったことが成果になって返ってこないこともあるけど、成果で見えて返ってくることもあるので、そういうときに嬉しい。単純なことで言えば、運動会の練習があり、運動会で頑張って優勝できたり、子どもたちも自分の中で成長できたと作文に書いたりしていたら、

子どもの成長が見られて良かったなど。子どもと関わっていたら身近に分かるときもあるので。

---今後も教師を続けていきたい？

はい。離れば離れるほど。

離れてみれば、教師に対する風当たりも厳しいし、先生ってすごく大変だとつくづく感じます。今の仕事をしていたら、自分のペースで仕事はできるので、現場に戻った時、子どもと朝から晩までずっと関わって気を張っている生活に戻れるのか、また情報教育や英語の授業をしないといけないとか、次々に新しいことが入ってくるので、それに対応できるのかなという部分は不安です。

でも不安もあるけれど、どこに行っても働くのは大変だと思うので、そこにやりがいを見つけられるかどうかで続けられるか続けられないか決まってくると思います。ただ、他にとんでもなくやりがいのある働き口があったらそっちに行くかもしれませんけど。宝くじが当たって大金持ちになるとか（笑）。

教育委員会で働いて、2年目。 外に出て見えてくるもの。

現在は教育委員会で仕事をさせてもらっているので、いろんな人とのつながりとか、地域の人と関わるのがとても多い。いつか現場に

戻った時に、そんないろんな方とのつながりを活かしていきたいなという気持ちがある。授業の中で、こんな人に助けてもらいたいなとか、この人とコラボレーションしてこんな授業したいなとか、いろいろできると思うと今からそれがすごく楽しみ。

---外に出て見えるものがありましたか？

ありました。学校の中はどうしても閉鎖的と言われることもあるので、ちょっと視点を変えてみると、逆に地域で助けてくれそうな人はいっぱいいるんだなということが分かりました。例えば、この授業がうまくいかないなあとというときに、知識がないから調べようと思って調べるけど、結局調べたことしか出てこない。いざ地域に目を向けてみたら、その道のプロがいるとか。逆に、「呼んでくれたら、いくらでも喋るよ」という人も。外に出てから、頼んだらなんでもしてくれる人はいっぱいいるなと気づきました。外に出るまでは一切分からなかったです。教師をしていて、地域の人と関わりのある人は何となく学校のこと応援してくる人はいるなあという印象なんですけど、子どもさんやお孫さんがいなくても、地域の学校を応援したいという人がいっぱいおられます。経験や知識を持っておられる方がいるのにそこと学校とのつながりがないので、学校からそういう方に依頼ができないし、地域の方からも自ら学校に「私は、こんなことができるからと使ってもらえませんか」ということもなかなかないのが実状です。

でも外に出て、こんな人と繋がる中で、こんなすごい経験を持っている人とか、「何かあったら何でもするよ」という人が、たくさんおられるんだなあと思ったので。僕は、そういう方と学校を繋げたいし、それがこれからの自分の役目だと思っています。

ボランティアを通して 学生たちと触れ合う中で 感じたこと

僕が学生の時よりも断然、ボランティアに参加してくれる学生さんはすごく意識が高い。そもそもボランティアに参加して、いろんな関わりを持ちたいと思うことがすごい。やる気いっぱいの子がたくさんで、みんなしっかりしている。地域子ども教室や小学生チャレンジスクールのボランティアは、学生さんの参加がなかったら成り立たないのでありがたい。



↑赤松指導員のインタビューに答えていただきました

センパイから後輩へ

教師にとって大事なことで、結局“人間性”や“人柄”なのかなと思う。僕自身がそれを一番感じているので。この先生はいろんなこと知っているとか、いろんなこと教えてくれるなっていうことが、勉強以外でもすごく大事だと。何かトラブルが起こったときも、自分がある程度何かしら経験値があったとしたら、人と関わるときは、こうやったらうまくいく、こういうことが経験としてあったら、いろんなことに対応できるかなと。遊びでも旅行でもなんでも本当にいろんなことを、経験しておくことが学生さんには大事なのかなと。学生の時間があるときにしかできないことを経験して欲しい。



↑「小学生チャレンジスクール」で子どもたちと（加東市ケーブルビジョンより）